

RFC 6349によるTCPスループットの最適化

ネットワークマスタ プロ MT1000A

ネットワークマスタ フレックス MT1100A



RFC 6349に準拠した実践的なスループット試験

現在のネットワークでは、パフォーマンスの最適化が不可欠です。通常、ネットワークサービス開通時の検証としてIETF RFC 2544やITU-T Y.1564に準拠した試験が行われていますが、これらの試験結果が良好だとしても、サービス運用時のTCPスループット低下など、ユーザの満足を得られないケースがあります。

MT1000A/MT1100Aは、TCPスループットオプションを実装することで、最大10Gbpsに対応した通常のRFC 2544/ITU-T Y.1564試験に加え、RFC 6349に準拠したTCPスループット試験ができます。

■ RFC 6349に準拠した試験

RFC 2544やY.1564によるSLA検証に加え、RFC 6349に準拠したTCPスループット試験を行うことで、ネットワークサービスを提供するプロバイダは、ユーザに対してネットワーク装置の調整などの的確なアドバイスを提供できます。このことは、ユーザの不満を解消し、苦情処理にかかるコストを削減するのに有効です。

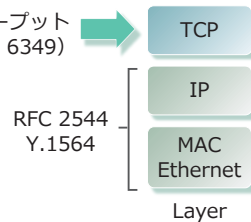
■ 10Gbpsに対応したハードウェアによる高い信頼性

サービス運用時のトラブル対応で、ソフトウェアベースのiperfを使用してTCPスループット測定を行うケースがあります。しかし、iperfはソフトウェアベースのため、再現性や精度が低く、また使用するPCの性能によりスループットが低く計測されるといった問題があります。MT1000A/MT1100Aは、サービス提供用サーバにインストールされたiperfと接続し、実環境上でハードウェアベースの信頼性の高いTCPスループット試験ができます。また、通常のPCでは測定不可能な、10Gbpsインタフェースを使用した試験にも対応します。

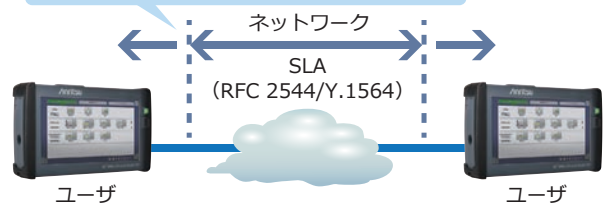
■ 双方向同時試験

Webブラウジングやストリーミングなど非対称トラフィックを前提とした試験だけではなく、企業内ネットワークなど双方向トラフィックを想定した試験も重要です。MT1000A/MT1100Aは、双方向同時試験を行うことで、より実環境に近い試験ができます。

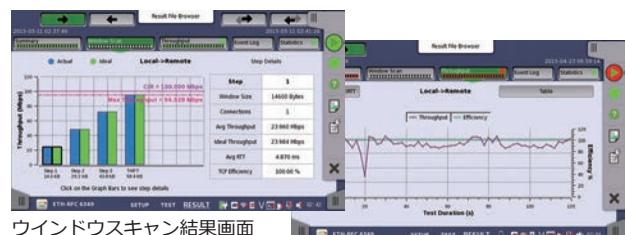
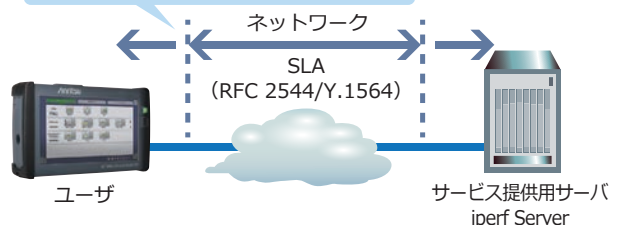
TCPスループット試験 (RFC 6349)



RFC 6349に準拠したTCPスループット試験



iperfを使用したTCPスループット試験



TCPスループット結果画面